

はかた中だより

第 14 号

令和4年12月16日

校訓 自らが学ぶ

学校の教育目標

豊かな心を持ち

主体的に行動する生徒の育成

TEL: (0897) 72-1055

FAX (0897) 72-1053

人権尊重の意識を高めました。

1948年12月10日に、国際連合総会において「世界人権宣言」が採択され、これを記念して12月10日は、「人権デー」となりました。これを受け、わが国では、毎年12月4日から12月10日までを、「人権週間」とし日本各地で、人権尊重のための啓発活動が展開されています。さらに愛媛県においては、毎年、11月11日から12月10日までを、「差別をなくする強調月間」と定め、「差別をなくする県民の集い」を開催するなど、人権尊重の理念の下、啓発活動を行っています。

本校では、「差別をなくする強調月間」に先立ち、11月3日(文化の日)に、人権劇(今年は、SNSによる「いじめ問題をテーマとした「魔術」を上演し、保護者の皆様にも見ていただきました。また、「差別をなくする強調月間」中の、12月1日には、人権・同和教育参観日を開催し授業を参観していただくとともに、学年PTAを開き、人権意識を高めるため、話し合う機会を持ちました。12月7日には、日赤から講師の先生を招聘し、人権集会を開催し、様々な角度から人権を尊重することの重要性を考える機会といたしました。



人権参観日

1年生は、「いじめ問題」についての授業を行いました。授業を通して、「いじめは絶対にしない、許さない」という強い気持ちが持てたことと信じます。

生徒の感想です。

○ いじめは絶対にしてはいけないし、起きてはならないことを改めて理解できました。また、加害者や傍観者にならず、かなえさんのように仲裁者になりたいと思いました。

○ 自分がいじめで苦しむと同時に、親が苦しむ姿を想像すると、とても心が痛く、加害者、観衆を絶対に許せません。傍観者も、自分がいじめられる怖さもありますが、勇気を出して、先生や大人に相談することが大切だと思いました。

保護者の感想です。

◎ いじめをしている加害者は、家庭やその子の中で、嫌なことがあったり辛い感情で悩んで人を傷つけるのかな?とも思います。人間関係は大人になっても難しいと思います。話をよく聞き、共感してあげて、肯定してあげる、友人づくりも大事だと思います。誰かに勝とうとせず、自分らしい日々を過ごしていれば幸せです。皆それぞれ自分を大事に、友人や家族と笑顔でいてほしいです。

◎ 普段の子供との会話や様子から、陰湿ないじめは起きていないと思っていますが、同じ状況、発言でも、子供にとっては受け取り方が違って、Aさんにとっては気にならなくても、Bさんにとっては悲しい、辛いこともあるのだと思いました。それが意図せず傍観者、または観衆になってしまっているのかもしれないので、何気ない会話の中で、(今日こんなことがあったんよ。○○がやばかったよ、など)親が、そのことに気付けたらいいなと思います。そのためにも、親子でいろいろ話し合える関係性を大事にしようと思いました。

2年生は、渋谷一揆について学習しました。生徒たちは、「身分上厳しく差別をされてきた人たちは、どんな思いで一揆をおこしたのか」や「渋谷一揆はなぜ成功したのか」について考え、話し合いました。人間の尊厳について、深く考えることができました。

生徒の感想です。

- 一揆をおこさせないようにするために、藩は差別政策を強めていたが、差別をされた人々が結束した結果、一揆は成功した。仲間とのつながりや協力が大切だと感じた。
- 今日の授業で、「まとまる」ことの大切さを学びました。一揆が成功したのは、1300人の強い思いと武器を持たず言葉で戦ったからです。私も、強い意志を持ち暴力は使わず、言葉で解決していきたいです。

保護者の感想です。

- ◎ 子供たちの感想を読んで、しっかりとした考え方に感心しました。授業の中でも、「差別することによって、人々が分裂し団結させないようにした。」という意見に納得させられました。一人ではどうしようもないことも、皆で団結して信念を持って訴えることで改革できる！すばらしい解決法ですね。授業で習い感じたことを忘れずに、将来、差別心や偏見を持たず、人権を尊重できる大人になってほしいです。
- ◎ 大切なことを守るために、声を上げることは大切だと思います。人が集まれば、自信を持って訴えることができると思います。人が集まって発した言葉は、とても強く武器になるのは、どの時代も同じなのだと思います。だからこそ、簡単に発した言葉が広まる現代は、本当に正しい言葉なのか、行動なのかを慎重に考えて言葉を発していかないといけないと感じています。



3年生は、「就職差別」について学習しました。就職差別につながる恐れのある言葉や適切な採用基準、自分の望む職業に就くために、今できることは何かを考えました。あらゆる人権問題を解決するためには、「自分事」として考える必要があります。3年生は、一人一人が「自分事」として考えることができていました。

生徒の感想です。

- 僕は今日の授業で、「就職差別」という言葉を初めて知りました。でも、授業を進めていく中で、「あ、これ前の道德の授業とつながる！」というのがいくつも出てくることに気がしまし

た。例えば、面接の際、出身地について質問することは、部落差別とつながります。「この人は被差別部落出身だから不採用」というのは絶対に許されません。就職するときは、「資格」や「特技」が大切だと思うので、どんどん身に付けていきたいです。

- 今日の学習を通して、就職差別について知り、考えることができました。就職差別に当たるものは、全て仕事に直接関係のないことです。私も将来面接を受ける際、不適切な質問をされることがあるかもしれません。その時は、「その質問には答えられません。」とはっきり断る勇気を持ちたいと思いました。また、自分の望む職業につくために今できることは、勉強を頑張っているいろいろな資格を取ることだと思います。私は、まだ将来の夢がはっきり決まっていないので、いろいろなことに興味を持つことも必要だと感じました。

家族の絆エッセイの紹介 第4弾 ひいおばあちゃんとの思い出。1年生女子の作品です。

「魔法の教え」

私のひいおばあちゃんは、明るくて大切なことをたくさん教えてくれる。一番心に残っているのは、「言葉っていうのに『葉』という漢字が使われているのは、葉は一度木から落ちたらもどれない。それと同じで、言葉ももどれないから、自分の言葉にしっかり責任を持ちなさい。」という教えだ。私は昔から、人の気持ちを考えず思ったことを発言してしまうことがよくあった。それで、ひいおばあちゃんは、私のことをよく見ているなと思った。だからこれからは、自分の言葉にしっかり責任を持つと決めた。すると、しっかりと言葉を選びながら発言することができていた。自分の言葉に責任を持つというのは、自分の本当の気持ちを隠さず、人が傷つかない言葉を選ぶということだと思う。ひいおばあちゃんの教えてくれたことを守ってきたからこそ、今の私がいるのだと思う。

